

2023 年度第 2 学期始業式校長挨拶 (2023.9.8)

皆さんおはようございます。

今年の夏休みは暑かったですね。それぞれ充実した時間を過ごしたことと思います。特段大きな事故もなく、2 学期を迎えられたことを嬉しく思います。

今日は、台風 13 号が接近する中での始業式となりました。最新情報によると、台風はゆっくり北上し、午後に東日本に接近。関東から東海にかけて午後から夜間にかけて上陸する見込みだそうです。関東甲信では、線状降水帯発生のおそれもあるとのこと。

このため、本日は始業式・組会合・身体測定・科目選択説明会などが終わったら、部活動など校友会活動は原則中止。用のない生徒は順次、速やかに帰宅してください。ただし、台風・雨雲の情報や交通機関のリアルタイムの情報を自ら調べ、安全に帰宅できるには、どのようにするのがベターなのか、自ら考えて適切に行動をしてほしいと思います。

さて、武蔵では、校長が直接全校生徒の皆さんに話す機会は年に 4 回あります。1 学期始業式、2 学期始業式、3 学期年賀式そして終業式。4 年前に武蔵の校長として母校に戻ってきたとき、それぞれ四季折々、変わらないテーマに基づいて色々な話をしたいなと思っていました。しかし、実際はコロナの影響で、放送での始業式を余儀なくされたり、どうしても、コロナ対応の話に終始したりしてしまいました。

コロナについては引き続き「無理をしない」ように注意していく必要がありますが、コロナへの対応が次の段階に移った現在、改めて初心に戻って皆さんに語りたいと思います。私が考えていたテーマの 1 つが「戦争と平和」の問題です。昔の武蔵の校長先生もよくそんなお話をされていました。1 年に 1 度はこのテーマでお話ができたらと思っています。というのも、どうやら戦争や平和に対する意識が変わりつつあるのではないかと思うとともに、それではいけないと思うからです。

この夏休み中に、今年も 8 月 15 日を迎えました。終戦記念日です。1945 年 8 月 15 日正午、昭和天皇の玉音放送をもって、日本は敗戦となりました。

今年は 2023 年。あの戦争が終わってから 78 年が経ちました。皆さんは日本の戦争を歴史上の遠い昔の出来事と思うのではないかと思います。

私が武蔵に入学したのは 1970 年でした。今から思えば戦後 25 年でした。でも当時は、皆さんと同じように、戦争のあった歴史は遠い昔のこのように思っていました。私の父

母も、子どもとして戦争は体験していたはずですが、戦争の話はあまり聞きませんでした。でも、当時はまだ、池袋の街にも傷痕軍人（しょういぐんじん）とって、軍服姿で手足を失っている方が生活のために、街角でハーモニカなどをふいてお金を得ようとしている姿を時々見ました。子供心に、「戦争は怖いなあ」という気持ちが自然に芽生えたとし、大人たちにも共通して「戦争はやっちゃだめだ」という雰囲気が当たり前のようになっていたと思います。

よく見聞きしたのは、例えば空襲での被害の話。あるいは特攻隊をはじめ国のためにと死んでいった青年の話。本も読みましたし、テレビもよくやっていました。やっぱり戦争はだめだなあ、いやだなあをつくづく思ったものです。

そして、いつしか戦後78年という月日が流れ、戦争をリアルタイムで知っている人は少なくなりました。というかほとんどいなくなっています。もし戦争のときに20歳で出兵していた人がいたとしても98歳。なかなか生きてはおられないですね。

そうした中で、最近、私を感じるものが2つあります。

まず1つ目。この時期になると戦争に関する色々な番組が行われますが、私の印象ですが、ここ数年、色々な報道番組を見ていると、生き残られた方が寿命を全うするにあたって、これまで語られてこなかったけれど、長年胸のうちに秘めていた苦しみや悲しみを吐露するものが多くなってきたように思います。

それは、戦争という極限状況を経験し、生き残ってきた者の苦しみです。

先日も、戦時中、日本兵だけでなく民間人も含め「全員玉砕」と報じられたテニアン島で生存された方の話を伝えていました。家族が隠れていた洞窟の中で、日本軍の兵隊が入ってきて集団自決を迫られ、我が子を殺めた母親の話がありました。日本軍の兵隊からは、「民間人も鬼畜米英につかまれば大変な目にあう」と教えられ、それを信じていたし、その命令に逆らえなかったとのこと。我が子を殺めたお母さんはどれだけつらかったでしょう。さらに、それでも母親は我が子を殺めきれなくて、自分が最後に殺めたという当時12歳の長女が長い間胸に秘めていた思いを語られていました。その後、運命のあやで、米軍の捕虜となり生き残ったお母さんの証言も長女の証言も、私は胸がしめつけられました。

戦争という極限状況は、人間性を崩壊させる。そうしたことを、人類はこれまでも戦争の中で繰り返してきた。その思いがあるからこそ、戦争が終わったときに「もう二度と戦

争は起こしてはいけない。そうした極限状況に至る前に何とか英知を尽くさなければいけない」と思ってきたんだと思います。

もう1つ、最近感じるのですが、核兵器の恐怖が増してきている一方で核兵器の怖さへの認識が薄れてきているのではないかということです。

核兵器については、それがいかに恐ろしいものであるのかということを知っているはずなのですが、ウクライナへのロシアの侵略、北朝鮮の核開発やミサイル発射などが常態化している実態を踏まえ、核兵器を必要悪として容認するような考え方も出てきていると心配しています。果たしてそうでしょうか。

日本は世界で唯一の被爆国です。日本人は、世界の人と比べると原爆の恐ろしさの実情を見聞きするなど、間接的に体験する機会は多いはずですが、世界の人には本当のところは原爆の恐ろしさは知りません。でも、どれだけ日本人が原爆のことを世界の人に伝えられるでしょうか。私は、武蔵生も含め、少なくとも原爆に対する基本的な知識はすべての日本人が持つべきだし、世界の人に伝えられることが大事だと思っています。

そこで皆さんに、いくつか聞きたいと思います。原爆の基礎知識について3つ。

第1問。広島と長崎に原爆が投下されたのは何年何月何日か。さらに言えば何時何分か。

答えを言います。広島は1945年8月6日午前8時15分。リトルボーイと呼ばれたウラン型原爆。ちょうど空襲警報が解除されて、1日の生活が始まる頃でした。原子爆弾は、投下から43秒後、地上600メートルの上空で目もくらむ閃光を放って炸裂し、小型の太陽ともいえる灼熱の火球を作りました。ピカドンですね。火球の中心温度は摂氏100万度を超え、1秒後には半径200メートルを超える大きさとなり、爆心地周辺の地表面の温度は3,000~4,000度にも達しました。衝撃波の圧力は爆心地から500メートルの所では、1平方メートルあたり11トン、爆心地から100メートルの地点での爆風は秒速約280メートルに達したと考えられています。爆風がおさまると、中心部の空気が希薄になり、周辺部から爆発点に向かって強烈な吹き戻しがありました。

長崎は1945年8月9日午前11時2分。ファットマンと呼ばれたプルトニウム型原爆。ちょうど長崎も空襲警報が解除され、午前の日常生活が進んでいるところでした。

第2問。原爆で亡くなった人の数はどのくらいか。これは正確にはわかりません。原爆

が落とされた年の1945年末までに約14万人とされています。当時の広島市の人口は35万人なので、35万人中14万人が亡くなった。長崎は約7万3千人。長崎市の人口は24万人でした。24万人中7万3千人。広島、長崎共に一発の爆弾で、大都市の3割から4割に人を死に追いやるものすごい破壊力でした。

そして第3問。原爆によって死に至った人は、大きく分けて3つの被害があったが、その3つの被害とは何か。これは原爆の大きな特色です。よく覚えておいてほしいのです。

1つ目は熱線による被害。

爆心地周辺の地表面の温度は3,000度から4,000度。とんでもない温度です。直接浴びた人は一瞬にして焼き尽くされました。生き残った人も皮膚がただれて手からぶらさが。やけどのあとにウジがわく。そして長期的に、やけどの跡ケロイドに苦しめられました。

2つ目は爆風による被害。爆心地100メートルの地点で秒速280メートル。ものすごい爆風です。一瞬に吹き飛ばされました。そして飛ばされるだけでなく、割れたガラスが皮膚全面に突き刺さり、それが人々を苦しめました。

そして3つ目は放射線による被害。

目に見えない放射線。数日で青い斑点が出る。髪の毛が抜け、血が止まらないといった急性障害でなくなる。その後も長い間、白血病、がんなどの後遺症に苦しむ。当時は原爆の怖さも放射線の恐ろしさも科学的に知られていません。いち早く救護活動を行った人々の中にも二次被害が出ました。

原爆の被害の実態はとても口では表し切れません。広島そして長崎には原爆資料館があります。ぜひそこで実際に見聞きして学んでください。

ぜひ武蔵生にはどちらかに必ず、できたら両方。訪問してじっくりと展示物を見てほしい、そして原爆の被害を世界の人に語れるようになってほしいと思います。

今年度、広島サミットでは各国首脳が初めて見たことが話題になりました。それぞれの首脳のコメントは公開されていませんが、おそらく色々な思いをもったと私は推察しています。

最後に、もう1つ、どうして戦争は起きてしまうのかというお話をします。

「戦争はいやだ」「戦争はよくない」とは誰しも思っているでしょう。いや、中には「戦争は仕方がない」さらには「戦争は意味がある」「戦争によって経済が潤う」と思う人もひょっとするといえるかもしれません。それは、私はどうかなあとと思います。

ただ、少なくとも多くの人が「戦争はいやだ」と思っているのに、なぜ戦争は起きてしまうのか。これは大きな問いです。

私の考えをいいます。それは私たち一人一人の心の中に、戦争への種があるからだと思えます。それは「憎しみ」です。憎しみが生まれると、それは争いに繋がります。

そして「憎しみ」が生まれるのは簡単です。例えば、SNSを見ていて、「自分のことが否定されている」書き込みをみたとき、どうでしょう。なぜそんなことを書くんだろうと考えるとともに、復讐心がめらめらとわいてくる。

この人間の心理のメカニズムについて、今から78年前の第二次世界大戦後、世界は反省し、新たにユネスコ（国連教育科学文化機関）という組織を作りました。この当時の世界の英知を結集したユネスコ憲章前文に、戦争が起きる心理的メカニズムが見事に分析されています。

それではユネスコ憲章前文の前半部分を読み上げます。

「この憲章の当事国政府は、この国民に代わって次のとおり宣言する。戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

まず、戦争は心の問題というんですね。

「相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった」

人類の歴史を総括してのキーワードは疑惑と不信。それらが戦争を引き起こすというんだね。相手に対する疑い、信じられないという気持ち。それが憎しみに昇華していく。

「ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教養を広めることによって可能にされた戦争であった。」

つまり、疑惑と不信の背景には「無知と偏見」がある。人間の無知と、偏見・思い込み。これが戦争のルーツ・種ということだと思えます。だからユネスコを通じて、世界の人々が交流をしよう、一緒に教育・科学・文化を発展させていこうという話になっていく

のです。

この無知と偏見、疑惑と不信、さらに憎しみというメカニズムは、今の若い世代の中にも今もあるように思うのです。例えば SNS による、いわゆるネットいじめです。

SNS の問題については、以前、SNS の書き込み・誹謗中傷で命を失ったプロレスラーの木村花さんの話を知っている人も多いと思います。私はこのメカニズムは戦争のメカニズムと同じだと思います。木村さんのお母さんは、娘の死を無駄にしないために講演活動を行われていますが、そこでのポイントは、「他人の痛みを本当に感じられるか」ということです。

「他者の痛みに対する想像力の欠如」。それがネットによる誹謗中傷を生み、さらに争いや戦争につながっていくと私は思います。

ネットもそうですが、ゲームなどで私たちはバトルや戦いに慣れきっています。リアルな場面では傷つくことは頭ではわかっている、その痛みまでは想像できない。感覚がマヒしている。そういう世界に、今私たちは生きていると思うのです。

長い話になりました。最後にまとめさせてください。

戦争はよくない。戦争という極限状況で人間性は喪失する。そうした状況までにならないようにすることが大事。そのためには人の心の問題。他人の痛みがわかるか。自分は無知や偏見に支配されていないか。考え続けていくことが大事なんだと思います。

最後に一点事務連絡、ホームカミングデイの宣伝をします。

武蔵には、部活動が中心ですが、年に 1 度卒業生が母校に戻ってきて交流するというホームカミングデイがあります。今年度は明日、9 月 9 日土曜日になります。

そこで、例年、OB の方が講演をするのですが、今年度は現大和総研理事長、元日本銀行副総裁の中曾宏さんが行います。演題は「日本経済試練の四半世紀」副題は「三理想が支えた職業人人生」です。この大講堂で 14 時開場、14 時 30 分開演です。

中曾さんは日本銀行を歩かれた方で日銀きっての国際通と呼ばれてきました。この春の新しい日銀総裁選でも最有力候補の 1 人とされていた方です。私より 3 つ上で、バレー部で一緒でした。尊敬できる素敵な人柄の先輩でした。私も久しぶりにお会いできるこ

とを楽しみにしています。

同窓会によると申し込みフォームによる受け付けは8月末で締め切り、武蔵生の申し込みは保護者も含め140名の方がすでに申し込んだとのことでした。有難うございますとのことでした。ただ、同窓会から、再度案内があり、追加で参加をしたい人はまだ受け付け可能ということです。また、事前申し込みなく当日直接会場に行ってもOKということです。興味がある方はぜひ中曾さんの話を聞いてみてください。

それでは、今日から2学期が始まります。充実した日々であることを心から願っています。